

日本海西部あかがれい(ずわいがに)資源回復計画の取組状況

1. 漁業者協議会等の開催実績（第19回日本海西部会既報告以降、平成23年10月末日現在）

府県名	開催年月日	会議名	参加者	主な内容
兵庫県	H23.8.9	因但底曳協議会	底曳協会（鳥取県、兵庫県）、 全底連、県（鳥取県、兵庫県）、 水産庁	・底曳網漁業にかかる資源保護対策の検討について
鳥取県	H23.8.9	因但底曳協議会	底曳協会（兵庫県、鳥取県）、 全底連、県（兵庫県、鳥取県）、 水産庁	・底曳網漁業にかかる資源保護対策の検討について
石川県 ～ 島根県	H23.8.24	日本海西部広域資源管理検討協議会	漁業団体、日本海区水産研究所、 府県（行政機関及び試験研究機関）、 水産庁	・沖合底びき網漁業の資源管理計画に係る調査について ・資源回復計画の取組の総括・評価について ・今後の広域資源管理のための連携・協力の推進について
	H23.9.27	ズワイガニ特別委員会	底曳組合、かにかご組合、 全底連、日本海区水産研究所、 府県（行政機関）、水産庁	・平成22年度ズワイガニ漁獲結果について ・ズワイガニ資源評価等について ・平成23年度日本海ズワイガニ採捕協定について

2. 漁獲努力量削減措置及び漁場環境保全措置の実施状況（平成23年10月末日現在）

（1）漁獲努力量削減措置

府県名	内 容	関 係 漁 業 種	実施時期	開始年度	実施状況
石川県	保護区の拡大	沖底 小底	ずわいがに漁期以外 （3～6月、9～11月）	14年度	措置済み
	保護礁の設置	沖底 小底	周年（恒久的措置）	14年度	措置済み
	分離漁獲型底曳網の導入（あかがれい小型魚及び漁期外のずわいがにの漁獲回避）	沖底 小底	ずわいがに漁期以外 （3～6月、9～11月）	15年度	措置済み（17年度で導入終了）
	減船	沖底	18年2月	17年度	1隻措置済み
福井県	分離漁獲型底曳網の導入（あかがれい小型魚及び漁期外のずわいがにの漁獲回避）	沖底 小底	ずわいがに漁期以外 （4、5月及び9、10月）	15年度	措置済み（16年度で導入終了）
京都府	保護礁の設置	沖底 小底	周年	15年度	措置済み
	分離漁獲型底曳網の導入（あかがれい小型魚及び漁期外のずわいがにの漁獲回避）	沖底 小底	主要漁期	15年度	措置済み（17年度で導入終了）
	操業回数の削減	沖底 小底	主要漁期	15年度	実施中
	休漁・休漁漁船の活用（漁場環境保全）	沖底 小底	4、5月及び9、10月の うち一定期間	15年度	15～22年度実施済み
兵庫県	保護区の設定（特定月、特定水深帯）	沖底 小底	ずわいがに漁期以外 （9～11月）	14年度	実施中。ただし、小底は17年度まで。
	保護礁の設置	沖底	周年	16年度	実施中

府県名	内 容	関 係 漁 業 種	実施時期	開 始 年 度	実施状況
鳥取県	小型魚の保護（20cm未満サイズの保護）	沖底	周年	14年度	実施中
	休漁	沖底	4、5月の一定期間	15年度	実施中（23年度実施済み）
	保護礁・保護区の設置	沖底	周年	16年度	実施中
島根県	目合いの拡大	沖底	12～4月	14年度	実施中
	採捕の自粛	沖底	9～11月	14年度	実施中
	休漁	沖底	4、5月の一定期間	15年度	15～17年度実施済み
	減船	沖底	16年6月 19年2月	16年度	16年度に1ヶ統2隻措置済み 18年度に1ヶ統2隻措置済み

（2）漁場環境保全措置

府県名	内 容	関 係 漁 業 種	実施時期	開始年度	実施状況
福井県	海底耕耘・海底清掃	沖底 小底	5～9月	14年度	23年度実施済み
京都府	海底耕耘・海底清掃（休漁漁船の活用）	沖底 小底	4～5月又は9～10月の うち一定期間	15年度	15～22年度実施済み
島根県	海底耕耘・海底清掃	沖底	4～5月のうち一定期間	15年度	15～17年度実施済み

3. 資源回復の進捗状況

資源回復計画に基づく漁獲努力量の削減措置並びに漁場環境の保全措置は、関係者の努力により、着実に実施されている。

これまでの漁獲量の推移は、下表のとおり、年変動はあるものの漁獲量の回復傾向が認められる状況にある。ただ、平成16年以降の漁獲量の急増は、卓越年級群に因るところも大きいので、計画期間である平成23年度まで漁獲努力量の削減措置並びに漁場環境の保全措置を確実に実施することが重要である。

魚種	資源回復の目標	現在の状況
アカガレイ	計画開始年（平成14年）における資源水準を指数で100とした場合に、10年後に115（漁獲量では110）とすることを目標とする。 （参考） $3,229 \text{ t}$（平成23年における目標漁獲量）＝$2,935 \text{ t}$（平成14年の漁獲量）$\times 1.1$	【資源水準・動向】 中位水準・横ばい 【漁獲量の推移】 $2,935 \text{ t}$（平成14年） $3,046 \text{ t}$（平成15年） $3,421 \text{ t}$（平成16年） $3,406 \text{ t}$（平成17年） $3,938 \text{ t}$（平成18年） $5,013 \text{ t}$（平成19年） $5,264 \text{ t}$（平成20年） $5,382 \text{ t}$（平成21年） $5,320 \text{ t}$（平成22年、暫定値）

